

# あそかビハーラ病院便り

む ゆ う じ ゆ

第 6 号

# 夏樹

2015. 9. 1 発行 あそかビハーラ病院  
〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3  
TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121  
E-mail:kanwa@asokavihara.jp

夏休みがまだまだ

続くと思っっている人は

今日を虚しく過ごす

夏休みが終わることを

知っている人は

今日を大切に過ごす

子どものころ、夏休みに出される宿題。毎年、早めに終わらせようと思いつながらも、まだまだ夏休みは続くと思っていると、宿題は後回し。さていよいよと思ったときには後3日。泣きながら宿題をしていました。

夏休みがまだまだ続くと思っていると、一見すると楽しみが多いように感じますが、大切なものを後回しにしがちです。夏休みが終わると思うと、少し寂しい気持ちもしますが、それまでにしなければならぬことを大切にします。

上の言葉。夏休みを人生と置き換えてみるといかがでしょうか。いま大切にすべきことは何なのか、自問してみたいと思います。

ビハーラ僧 花岡尚樹

## 「食」を通して いのちを支える

管理栄養士

細見 陽子

談話室のキッチンでパン作りをしていると、焼きあがるパンの匂いが患者さんの顔に笑顔をもたらしてくれます。食も進みます。「今日は何を食べよう?」「これおいしいね」日常生活では普通にある会話。人は「病気になる」ことで、昨日までの生活の多くの事を失い、手放すことを余儀なくされ「普通に食べる」との自由を失います。この「普通に食べることの自由」とはどういったものでしょうか?



↑行事食。トレーも茶色の和風のお盆に移しかえて少しでも病院食らしくないように一手間加えています。



↑患者さんがご自身のお力で食べられるように、一口サイズにしたお握りをスプーンにのせて提供しています。

それは「食べたい」という思いが満たされること、「食べられない」という状態を軽減すること、「食べたくない」という思いを理解されていること。つまり食への思いや自分の希望が満たされていることではないかと思えます。ご自分の心の中で「食べたい」と希望しているものが出てこなかったとき、どんな気持ちになるでしょうか。「食べたくない、食べることがしんどい」と思っているとき、「少しでも食べましょう」と食事を出されたらどんな気持ちになるでしょうか。そういった辛さや悲しみを持った方たちにとつての「食への思い」はどんな事なのか耳を傾けることがここ「あそか」での食事に対する役割ではないかと思っています。

小規模の施設だからできる一人一人に寄り添った小回りの利く食事提供を心がけ、できる限り患者さんの思いに耳を傾け、理解していくことで「食べることの自由」に繋がればと思います。



↑定期的に開かれる「あそかベーカリー」。患者さんやご家族の方にもお手伝いをいただいて、パンやクッキーを焼いています。

また「食べること」だけでなく、煎り玄米の香り・緑茶を焙じる香り、パンをやく香り、自然な食の香りを感じてもらったり、季節の食材を見て時の移ろいを感じていただくなど、感覚に触れることも含まれるように思います。畑で採れた野菜を眺め、遠い昔の出来事を思い出される。

それを味わうことで、ご自身の生きてきた道のりを思い出す時間を持たれる。

食を通して過去を懐かしみ、その思い出に安らぎを感じてもらえる事も「食への思いに寄り添う」一つであると感じています。

食事の形は決して一つではなく、それぞれが歩んでこられた人生そのものであるかも知れません。これからも、「食への思い」に寄り添い、患者さんのその一口を大切にしていきたいように心がける、そんなお食事を提供できればと思います。



## コラム連載②

京都の南部「あそかビハラ病院」がある城陽市、山城青谷のあたりはご存知だろうか。梅が有名だ。梅はその姿と香りで、また季節が変わればその実で私たちの頬を緩ませる。平成20年に浄土真宗本願寺派が母体となり親鸞聖人750回大遠忌計画の一環として当院が開設されてから6度目の春を迎える。今年も梅の香りは変わらず届いている。

当院は主にがんの患者さんとご家族に利用いただく「ホスピス・緩和ケア」を専門診療科としている。この専門的医療機関を、ビハラの理念のもとに開設したのが伝統仏教教団の浄土真宗本願寺派である。

私は看護師として勤務している。医療者側の当事者として今、仏教とホスピス・緩和ケアの融合に携わることに関心深く、そして感慨深く見つめている。

ホスピスは医療者が始めたものではない。その昔、キリスト教のシスターたちが始めた活動である。日本においても、古来お寺が同様の役割を担っていた歴史がある。聖徳太子の時代に造られた「四箇院」などを顧みると、かつて僧侶たちは、門徒の相談相手として、あるときはカウンセラーであり、子どもたちには教育者であり、患う人々

### 仏教とホスピス・緩和ケアの融合

看護部長 新堀 いづみ



↑患者さんとの時間を何よりも大切にする。習字の得意な方から書を習う新堀部長

には医師であり、薬剤師であり、介護福祉士でもあった。私はよく「原点回帰」という言葉を使っているが、当院の存在は元々のあるべき姿に回帰しているように思う。

「あそかビハラ病院」の基本理念には「仏の慈悲に照らされているぬくもりとおかげさまのところで安らぎの医療を実践します」という一文がある。私は医療者であるが、共に働く常駐僧侶たちとこの理念の体現者でありたいと思う。

かの昔、宗教者が担ってきたことのバトンがようやく私たちに渡された気持ちである。そして、この仏教を基盤とした「あそかビハラ病院」のホスピス・緩和ケアを毎年咲く梅の花のように100年、200年後の患者さん、ご家族へバトンをつないでいく役割を果たしたいと願っている。

(※当コラムは本願寺新報2014年4月1日号より転載させていただきました)

## 第21回日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会のご案内

日時：2015年9月11日(金)・12日(土)

場所：国立京都国際会館・グランドプリンセスホテル京都

※教育講演に当院院長の大嶋健三郎と管理栄養士の細見陽子が9月12日(土)の9:00~10:00に教育講演に登壇いたします。講演のテーマは「ホスピス・緩和ケアにおける“食”の楽しみ」で、あそかでの実際の取り組みを紹介させていただきます。ぜひの御来聴お待ちしております。





## 講演会 & 勉強会のご案内

### 緩和ケアレクチャー

日時：9月25日(金) 18:30～

場所：本願寺間法会館（西本願寺北隣）

講師：柏木雄次郎氏（関西福祉科学大学教授・当院顧問）

講題：緩和ケアにおける心身相関～痛み・うつ・せん妄～

### ASO CAFE（哲学的対話からケアを考える）

日時：10月28日(水) 18:00～

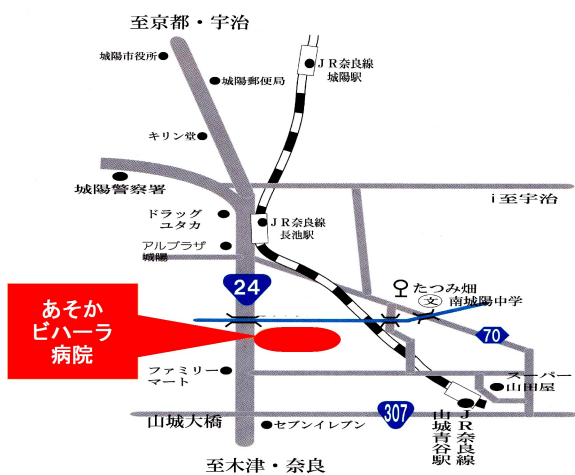
場所：あそかビハーラ病院 ビハーラホール

テーマ：認知症？それともせん妄？

主催：あそかビハーラ病院・看護部

お申込みは不要、参加費は無料です

## 交通アクセス



### お車の場合

- ①京都から：国道1号線より国道24号線  
（京都駅から約1時間）
- ②大阪から：国道307号線を通して  
山城大橋を越え、国道24号線を北へ
- ③奈良から：国道24号線を北へ

### 電車の場合

- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩 15分
- ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
- ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
- ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

## 編集後記

緩和ケア病棟認可をいただいて早くも4カ月が経ちました。少しずつ軌道に乗つつあり、更なるケアの向上を目指してまいります。

また新たな取り組みとしてアソカフェをオープンいたしました。リースタイルで参加者ご思い通りに語り合うカフェ形式の勉強会です。第1回、第2回ではホスピスについてや、フィジカルアセスメントについてそれぞれが語り合いました。一方的に講師のお話を聞くだけでなく、自ら語る中で考えが整理されるように思います。

今回は10月28日(水)18時から開催いたします。「認知症？それともせん妄？」について語り合い学びを深めたいと思います。多くのご参加お待ちしております。

(花)

ボランティアさんの募集  
あそかの一員として活動していただけるボランティアさんを募集しています。活動の内容は、ティーサービス・ガーデニング・生花の手入れ・朗読・アロマセラピーなどがあります。病院ボランティアさんは、ボランティア研修を受講していただく必要があります。ホームページをご覧ください。山本まで直接お電話ください。

相談&各種申し込みは  
あそかビハーラ病院電話窓口へ  
**0774-54-0120**

研修・見学をご希望の方  
ホームページから見学  
申込書をダウンロード  
し、ご記入の上、ファックスか、メールでお申し込みください。見学希望日は第3希望まで必ずご記入いただき、ご不明な点はお気軽にお電話ください。